

2020/12/13-2

(うとQ世話し 外国人従業員教育「百聞は一見にしかず」の例) 書庫版



「百聞は一見にしかず」

全てはこれに尽きます。

ろくすっぽ日本語も英語も分らない相手と、こちらはろくすっぽネパール語が分らない同士で仕事をするには、以前にも書きましたが、数字を使うか図表を使うか絵を描いて見せるのが一番と。

それで今回は、かねてより従業員にアナウンスをしていたカーリー文化圏の輸入食材を扱う食料品店を実際に作って具体的なイメージを従業員たちに沸かさせようと今朝思い立ち、従業員が出勤してくる前に実際にセッティングして見せてみる事にしました。

今回はコストもかからないことが分っていたので、後は自分の手間暇だけ。

即座に実行に移しました。

ナニを実行したかという、Namaste curry restaurant 本館脇の別館 restaurant の客席テーブル (といっても幅 180 センチ、奥行き 45 センチ仕様の会議机 2 基を奥行き方向に束ねた物に臙脂色のテーブルクロスとそれを覆うビニールシートをかけただけの物なのですが) それを動かし、壁の前、横一列に並べて食品陳列台を設定し、余った椅子は全部反対側の壁の前に、これまた横一列の、対面して座らなくてすむように設定しました。

当然真ん中はがらんだりの空きスペースになります。

広々として気持ちが良いし、店内の様子もまるで様変わり。あたかも別店舗のように見えます。

そうであるなら、入り口のガラス引き戸をわざと開けておけば、コロナ渦で数はかなり減ってはいますが、それでもたまに通るカーリー文化圏の在日就労外国人さんの目に留まる可能性もありそうです。

まだイメージ作りだけなので、当然食材はまだ並んでおりませんが、あわよくば

「んっ?なんか違う。何だろう」

と、今までと店内の様子のがらりと変わっている事に気づいて、疑問や関心、或いは更に進んで興味迄抱いてもらえるかもしれません。

そうなれば販促効果としてはシメタものです。

そんな捕らぬ狸の皮算用をしていた処に、従業員達が順次入社して参りました。

案の定

「んっ？ナニ？ドウシタ、アルカ？」

それで

「grocery store（食料品店）や」

と一言説明すると

「オオーッ!!」

と素直な歓声。さすが外国人。

もう何の説明もありません。それだけでOK.

やはり「百聞は一見にしかず」でございました。